



カテーテル関連 血流感染の感染率の計算方法

大阪府立千里救命救急センター
看護師
池上 美保

感染率の計算は…

- 中心静脈カテーテル関連血流感染率

$$= \frac{\text{中心静脈カテーテルを挿入した患者における血流感染の数}}{\text{中心静脈カテーテル使用のベ日数}} \times 1000$$



分子は…

- 「中心静脈カテーテルを挿入した患者における血流感染の数」を使います

では

何をもって“1”とするか？

疾患の定義を明確にしておくこと
が大切です

第2回 関西感染予防ネットワーク

分母は…

- 「中心静脈カテーテル使用のベ日数」を使います

なぜ？

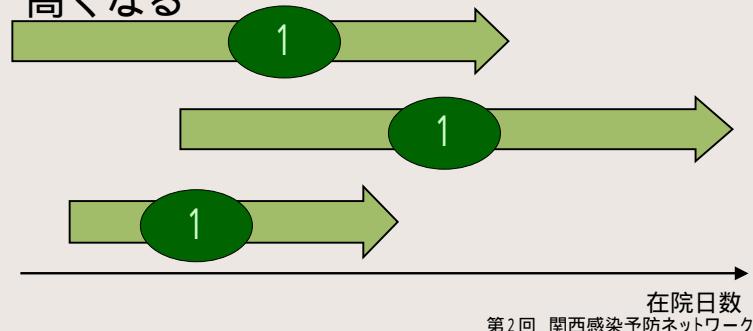
入院患者数は…
のべ患者数は…



第2回 関西感染予防ネットワーク

分母に「入院患者数」を使用すると…

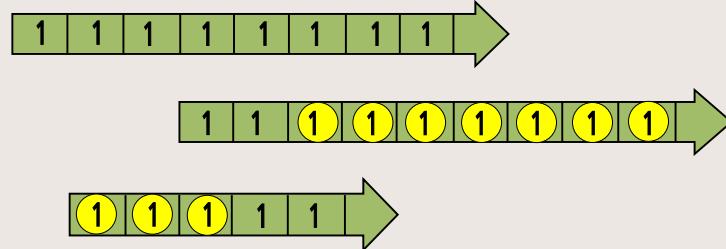
- 在院期間は、患者の重症度によって変化する
- 在院日数が長期化すると感染のリスクが高くなる



第2回 関西感染予防ネットワーク

分母に「のべ患者数」を使用すると…

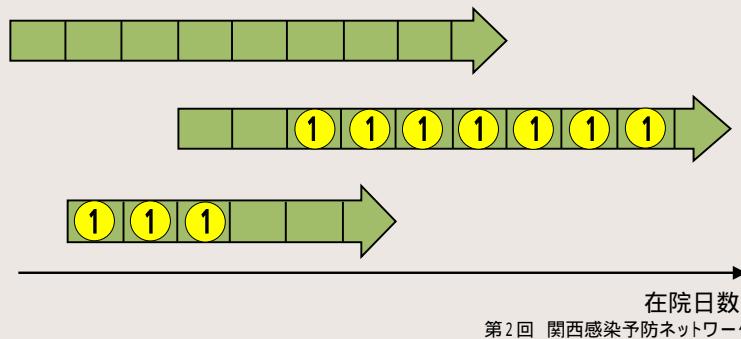
- 在院期間のリスク調整ができている
- 中心静脈カテーテルを挿入していることは感染のリスクとなる



第2回 関西感染予防ネットワーク

分母に「中心静脈カテーテル使用のべ日数」を使用すると…

- 中心静脈カテーテルの挿入期間が長くなると、感染のリスクが高くなる



第2回 関西感染予防ネットワーク

よって…

- 中心静脈カテーテル関連血流感染率
中心静脈カテーテルを挿入した患者

$$= \frac{\text{における血流感染の数}}{\text{中心静脈カテーテル使用のべ日数}} \times 1000$$

器具使用のべ日数(デバイスデイズ)とすることで、医療器具使用期間(頻度)の影響によるリスクを調整することができる

第2回 関西感染予防ネットワーク